

JICA 中国事務所ニュース

2010年6月号

【トピックス】

- ◎ 集団研修で蒔いた種 2
- ◎ あれから30年 2

【ニュース】

- ◎ 地震災害時の被害軽減を目指して 3
- ◎ 四川大地震で被災した地域で森林復旧を開始 4
- ◎ 中国西部地区の林業人材を育成 4
- ◎ 北京での小学校における節水模擬講義 5
- ◎ 「中国人材育成奨学計画(JDS)45名留学生が出発 5

- 【寄稿コーナー】 6

- 【帰任者コーナー】 8

- 【China Cool】 9



集団研修「生活習慣病予防対策コース」フォローアップ事業での健康教育の様子

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

編集室担当: shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- <http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/index.html> (中国事務所ニュース)
- <http://j.people.com.cn/99005/index.html> (ボランティア活動)
- <http://searchina.ne.jp/jica> (サーチナ JICA ページ)

トピックス

集団研修で蒔いた種 ～生活習慣病予防に取り組む研修員～



石家市 CDC のスタッフ(右端が段巧紅さん)と専門家(中央の2名)

高血圧、糖尿病、高脂血症、がん・・・これらは「生活習慣病」と呼ばれるグループの病気です。中国では近年、生活スタイルの変化とともに、生活習慣病を抱える人が急速に増加しています。これらの病気は一度かかると中長期的なケアを要することが多く、莫大な医療費のみならず、日常生活にも大きな支障を及ぼします。

日本では早くから健康教育、保健指導、健康増進といった「予防」に対する取り組みが浸透しています。「ウエスト 85 センチ以上の方はメタボに注意！」といった謳い文句も良く耳にしますね。こうした日本の経験を基に、10年以上、JICAの集団研修「生活習慣病予防対策コース」を実施している機関が愛知県にあります。財団法人愛知県健康づくり振興事業団「あいち健康プラザ」です。今般、この集団研修に参加した石家市 CDC(疾病予防コントロールセンター)・段巧紅さんの要請に基づき、あいち健康プラザの専門家がフォローアップ協力として訪中しました。

滞在中は段さんが帰国後、所属先の上司や同僚とともに企画・実施してきた「高血圧患者向け健康指



ゲームを交え、身体を動かす楽しさを学ぶ

導プログラム」や「小学生の健康生活スタイル介入行動プログラム」に対する様々なアドバイスが行われました。特に後者では、小学校 5 年生を対象に、専門家が健康教育授業のデモンストレーションを実施。教室内で身体を動かすゲームを交えて、児童の対象年齢にあわせ、子どもの興味をひく形で進める授業は、とても参考になったと好評でした。幼少期の生活習慣(運動・食事・睡眠)は丈夫なからだづくりにつながる大切な要素でもあります。

集団研修はわずか 1ヶ月間の研修ですが、このような効果的なフォローアップができたのは、帰国研修員の士気の高さもさることながら、石家市 CDC が組織として段さんの活動をサポートし、予算・人員等の体制を自主的に整えていることが大きく影響しています。中国国内では診断・治療が先行し、まだまだ予防に対する取り組みは少ないのが実情ですが、集団研修で蒔いた種がこうして実を結んでいるのを知り、非常に嬉しく感じたフォローアップでした。今後も帰国研修員の動向をウオッチしていきます！

(所員 小田遼太郎)

あれから 30 年… ～JICA 協力を経て発展を遂げる実験動物研究所～

5 月 26 日、科技部、衛生部、国家中薬管理局、中国科協学会、中国医学科学院北京協和医学院、日本大使館及び前島一淑 元プロジェクト専門家(慶

応大学名誉教授)など、延べ 200 人余りが参加し、“中国医学科学院北京協和医学院医学実験動物研究所設立 30 周年式典”が盛大に行われました。

JICA では、1992 年 7 月から 5 年間、実験動物に関わる人材の再訓練・養成を目的として同研究所とともに「実験動物人材研修センタープロジェクト」を実施しました。18 期の研修、11 編の教材、500 人余りの実験動物科技と管理者を育成した同プロジェクトは、研究所及び中国の実験動物科学の発展に積極的な役割を果たし、優秀な実験動物科学専門人材を育成したと評価されています。また、研究所の教育及び研究環境を改善し、研究所を中国実験動物人材育成基地に発展させていく土台ともなりました。そのため、式典では当時のチーフアドバイザーであった前島氏が国際合作貢献賞を受賞されました。

また、式典では研究所設立以降 30 年の間で成果

が発表され、国内では一流の研究所、国際レベルでは競争力ある実験動物研究基地を目指すという今後の青写真が伝えられました。研究所の発展に大きく貢献した日本政府の技術協力に対しても感謝の意が表されました。当時のプロジェクト C/P で、現在は研究所の所長を勤める秦川所長は、“日本の協力がなければ今の研究所の姿はありませんでした。他どの協力よりも JICA の協力が一番役に立ちました”という感謝の言葉を日本側関係者に述べました。

(所員 劉然)

ニュース

地震災害時の被害軽減を目指して ～ 地震緊急救援能力強化計画プロジェクト キックオフ ～



小雨の中でのデモンストレーション

小雨の降る中、地震応急救援センター（NERSS）蘆傑教官の「災害発生！第1小隊搜索開始！」の掛け声で訓練は開始された。崩れた建物の周りで「だれかいませんか！」という呼びかけとともに人命探査装置による搜索が行われる。

5月28日、北京市郊外にある地震緊急救援訓練基地で「地震緊急救援能力強化プロジェクト」のキックオフセレモニーが行われ、100人以上の参加者が見守る中、NERSS教官と基地で訓練を受けた各省の救助隊員による訓練のデモンストレーションが行われました。

2008年5月に発生した四川大地震では、多くの貴重な生命、財産が奪われました。また、今年4月には

青海省でも大地震が起こるなど、中国は地震被害の多い国です。同じく地震多発国である日本は、中国の地震災害発生時の対応能力強化の取り組みに対する支援として、総務省消防庁の全面的な協力の下、2009年10月から「地震緊急救援能力強化プロジェクト」を実施しています。

プロジェクトではこれまでに、NERSSの応急分野教官育成のためのセミナーや訪日研修を行なったほか、4月には長沢亨長期派遣専門家が、また東京、横浜、仙台、神戸、広島各政令指定都市消防から短期間の救助専門家が派遣され、救助分野教官に対する訓練も行ってきました。

「日本の救助専門家との訓練を通じ、地震救援の体制、救助中に必要なバックアップや安全管理などを深く学ぶことができ、また技術的な面でも大きな成果がありました。職場に戻ったらここで学んだ知識や技術を同僚達に伝え、地元の災害応急救援能力向上に力を尽くします。」というのはこのプロジェクト初めての地方省救助訓練に参加した、内モンゴル自治区からの参加者。

中国の地震災害の被害軽減を目指して、日中関係者の努力は続きます。 (所員 倉科和子)

四川大地震で被災した地域で森林復旧を開始！ ～四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト植樹式～

四川大地震から2年が経ちました。中国は非常に速いスピードで復興に取り組んでおり、真新しい住宅や学校が次々に建設されています。しかし、一步、山の中に入ると、地震で崩れたままの岩肌がまだ多くあります。崩れた山は地滑り、土石流など二次災害の起こりやすい危険な状態になっています。現に、5月29日には汶川県で地滑りが発生し、道路を寸断してしまいました。このような二次災害を防ぐためにも、一日も早い山腹の植生回復が必要です。

「四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト」では日本の森林復旧の豊富な経験を生かし、四川の

森林復旧を支援しています。5月13日には、震災で大きな被害を受けた四川省綿竹市で約100人の参加を得て記念植樹を行い、治山工事を開始しました。式典には国家林業局や四川省林業庁、日本大使館、JICA中国事務所、森林復旧を指導する日本人専門家など日中の関係者が出席し、森林復旧事業に対する期待や決意を述べました。また、綿竹市の人々とともに被災した山腹に植樹を行いました。今後、日中が力を合わせて四川の山の緑を回復し、被災地の二次災害を予防していきます！

(所員 足立佳菜子)



記念式典の様子



記念植樹の様子

中国西部地区の林業人材を育成！ ～中国西部地区林業人材育成プロジェクト キックオフセミナー～



キックオフのセレモニー

中国西部地区は中国の環境保全上、重要な地域ですが、乾燥した気候や厳しい経済状況など困難な条件下にあり、中国政府が推進する集体林権制度改革や国有林場改革といった重要な改革についても、改革を担う人材が不足しており、他地域に比べて改革が遅れています。日本は国有林改革や民有林管理の経験があり、また、林業分野の人材育成を体系的に実施していますので、これらの知見・経験を生か

して、西部地区の人材育成を支援し、集体林権制度改革や国有林場改革といった重要な改革の促進に協力することとし、「中国西部地区林業人材育成プロジェクト」を2010年3月に開始しました。

5月26日には、国家林業局や国家林業局管理幹部学院、西部各省の林業庁、日本大使館、JICA事務所、日本人専門家などの日中関係者約60人の参加を得て、プロジェクトのキックオフセミナーが開催されました。

セミナーでは、中国側から日本の林業分野の経験から学び、中国の林業改革を加速させたい、人材育成は中国の生態文明建設の上でも非常に重要であり、日本の協力を期待する、といったメッセージが寄せられ、また、日本側からは中国の現場のニーズに即した協力を行っていく旨が述べられました。日本の経験を生かし、中国の現場に役立つプロジェクトになるよう、日中関係者一同で頑張っていきたいと思えます。

(所員 足立佳菜子)

北京での小学校における節水模擬講義 ～節水型社会構築モデルプロジェクト(効率的な水資源管理)～



ボトル水8本が入った「水くみりュック」を水汲みの苦勞を体験しました

2010年5月28日の午後、節水リーダー研修の一環として、北京中古友誼小学校で節水模擬講義を行いました。

普及啓発(節水教育)分野短期専門家として派遣された橋本淳司氏の授業を受けながら、4年生の小学生生徒(約30人)とともに節水リーダー研修に参加者(22名)が忘れがたい50分間を過ごしました。

普段生活で見慣れている地球儀、バケツ、ペット

ボトル等を道具にして、橋本専門家が生き生きとした授業を提供してくれました。参加型の方式も、外国人の先生と初対面で緊張感を高めていた小学生たちにも参加型の方式は受け入れられ、授業中、生徒たちは「先生」「先生」と呼びかけながら、先を争って発言し、最後に節水に関するアイデアを自ら提案し、家庭節水を促進すると宣言しました。「小手拉大手」という、小さな手を通じて、大きな手をもつなぐ効果も期待できるのではないかと思います。

他方で、活発な空気に包まれていた教室の後ろには、厳肅な表情で授業の様子を見つめている方々もいます。それにプロジェクトモデル都市である北京市、鄭州市、淄博市からの22名の節水リーダー研修参加者です。今後、その22名の方は節水リーダーとして学校、企業、社会において、水の大切さを啓蒙していくこととなります。今回の模擬授業の見学を通じて、自ら節水リーダーの舞台に立つ姿も想像されているでしょう。今後、持続可能な社会づくりのために、がんばって普及啓発活動を行ってほしいです。

(所員 唐佳)

「中国人材育成奨学計画(JDS)」45名留学生が出発

6月3日、2009年度無償資金協力「中国人材育成奨学計画(JDS)(第Ⅷ期)」37名の英語コース留学生が日本へ旅立ちました。8名の日本語コースの留学生は一ヶ月後に出発します。留学生たちは中央官庁及び地方政府の公務員で構成されており、書類選考、現地運営委員会(日本大使館、商務部、JICAで構成)による総合面接、また受入大学の教官による専門面接を経て合格に至りました。

日本への出発に先立ち、6月2日、オリエンテーションを行いました。また、当日の夜には日本大使館主催の壮行会が開催され、大使館を代表して片山公使が、商務部を代表して羅商務一等書記官が、それぞれ激励の言葉を述べ、45名の前途を祝して、JICA中国事務所山浦所長の音頭で乾杯しました。

席上、留学生たちから、ぜひこの貴重なチャンスを

有効に利用して充実した留学生活を送り、帰国した後は中国の国家建設に貢献するとともに、日中両国の相互理解促進のためにも努力していきたいなどの感想が述べられました。壮行会には、多数の日本大使館員やJICA中国事務所員が出席し、留学生との交流を深めました。

45名の留学生たちは日本で法律、公共政策、経営、国際関係、経済など様々な専門分野について研究します。彼らはそれぞれ広島大学、国際大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、名古屋大学、新潟大学、一橋大学、筑波大学、国際キリスト教大学、上智大学の大学院で1年間～2年間の留学生活を送ります。これまで同事業による留学で、240名が修士号を取得して帰国し、現在、中国の中央官庁及び地方政府で活躍しています。

(所員 李瑾)

寄稿コーナー

上海万博シリーズ 第2回目 ～子ども連れの旅～



日本館

端午節休暇を利用して、家族4人で上海万博に行ってきました。4歳と2歳の子どもを連れての万博行き、今回は子連れでの視点で記載します。

■入場 (入場券)

入場券は各入り口のチケット売り場で購入可能です。また、上海市内の主なコンビニでも手数料なしで即購入可能です。1枚160元、ただし1.2m以下の子どもは無料です。

(ゲート)

2歳の子どもをベビーカーに乗せていたため、入場ゲートは自動改札ではなく車椅子専用ゲートで入場できました。係員の方が親切に誘導してくれるので安心です。



万博タクシー



14時頃の入場ゲート

■交通

(市内交通)

万博タクシーに乗れば、入場口の近くまで行くことができます。運にもよりますが、ぜひ乗車してみてください。公共バスや地下鉄は大変込み合いますので、お子さんのいる方はタクシーでの移動がオススメです。

(会場内交通)

広大な敷地と暑さのため移動が大変！園内巡回バスは複数系統あるのですが、色分けなどがされていないため、どのバスがどこに行くのかがよく分かりません。バス停には案内の方がいてはくれますが…。さらに、バスの中も超満員。小さな子どもを連れての移動は相当な覚悟を要します。

一方で、事務局用？or VIP用？の空のカーンはたくさん走っていました。正直乗せてほしかった…。

■食事

中華はもちろん日本食から洋食、アイスクリームまでより取り見取り。特に世博軸というメインストリートの中にはエアコン完備の快適なレストランがたくさんあります。休憩も兼ねてぜひ訪ねてみてください。コンビニもあり便利です。

■トイレ

エリア内にたくさんあります。すべて自動水洗、掃除も行き届いているためきれいです。子どもも安心して使えます。

■オススの入場方法

午後 2 時ぐらいからの入場がオススメです。私達もそうなのですが、まず入場口が全く混んでいないため簡単に入場できます。ただし、パビリオンはどこも長蛇の列なので、子どもを連れて見るのはまず不可能に近いと思います。ちなみに日本館は 3.5 時間、一番人気のサウジアラビア館は 9 時間待ちでした。ベビーカー&車椅子専用入り口を設けているところもありますが、すぐに入場できるわけではありません。ポー

ランド館では炎天下の中、車椅子の方が 100m ぐらい並んでいて入場待ちしていました。

ということで、我が家は当初の予定どおり万博の雰囲気を楽しんで、たまたま入れた日本産業館のみ見て帰ってきました。世界の最先端技術や文化や食が集まる上海万博。世界を体験できるまたとない機会です。ぜひ足を運んでみてください。

(所員 鈴木大介)

7ヶ国から参加！第一回重慶市国際交流野球大会



中外野球の開幕式



紅チームと黄チーム激突

■重慶市の野球チーム

重慶市南開中学では野球を通じた日中交流、とりわけ青少年交流の促進を目指して 2009 年 2 月に野球チームを設立しました。私は JICA シニア海外ボランティア(短期)の野球コーチとして、「生徒の野球技術の底上げ」「重慶市での野球の普及」「次に赴任する青年海外協力隊員(野球)のための環境づくり」を目標に、この南開中学で中学生・高校生に野球を教えています。

ちなみにこの南開中学は、清華大学や北京大学に毎年卒業生を 60 名以上送り出している重慶一の進学校でもあります。

■初めての国際交流試合

今回、重慶市において「第一回重慶市国際交流野球大会」を企画し、2010 年 5 月 16 日(日)、雨の多い重慶では珍しく晴れ間も見られた天候のもと開催されました。開催にあたっては在重慶日本国総領事館や重慶市人民対外友好協会、重慶市南開中学を通じて、多くの皆さんに広く声をかけていただきました。結果、選手としては日本人や中国人だけでなく、アメ

リカ人やオーストラリア人など合計 7 カ国から総勢 40 名が参加したほか、観客は 200 名ほどにもなりました。

■試合当日

試合日当日はバッターボックスを設置するところなども参加者にお手伝いいただきました。私の所属先である重慶市南開中学の田祥平副校長より歓迎の挨拶があり、また重慶市人民対外友好協会から参加者にポロシャツが提供されました。ポロシャツの色に合わせて紅チームと黄チームに分かれて試合を行いました。結果は 15 対 5 と大きな点差がつけましたが、好プレーや珍プレーの連続で、観衆からも大きな歓声や拍手をいただき、大変心に残る試合となりました。

■南開中学生徒の感想

現在、私の配属先である重慶市南開中学では 12 名の中学生が野球を学んでいます。日常的にはキャッチボール、ノックなど基礎練習を中心とした練習に取り組んでいます。中国において野球人口はまだま

だ少ないため試合を組むことが難しいのですが、今回の機会で中学生たちは「最初は緊張したけれど、ヒットも打って気持ちよかった」「外国人からアドバイスをもらい野球を勉強することができた」といった感想をもったようです。野球をますます好きになってくれたらと願っています。

■野球を通じた国際交流を行いたい

試合当日は地元新聞社の取材もありました。また、JICA 中国事務所からエコバックがプレゼントされました。重慶市には2010年7月に青年海外協力隊員(野球)が1名、2011年1月にも青年海外協力隊員(野球)1名が派遣されます。私自身の任期は7月29日に終了しますが、今後も野球を通じた国際交流が促進するよう、また子どもたちの野球技術が向上するよう、私自身も力を尽くしたいと思っています。



外国の選手も参加

(21年度短期シニア海外ボランティア

重慶市南開中学 野球 森英昌)

帰任者紹介コーナー

19年度4次隊と20年度1次隊の青年海外協力隊員が帰国しました



6月22日、平成20年度1次隊(2008年6月派遣)の4名と平成19年度4次隊(2008年3月派遣)の1名の合計5名が、中国での青年海外協力隊活動を終え無事帰国の途につきました。

前日に開催された帰国報告会では、2年間の活動で有意義だったこと、楽しかったこと、大変だったことなど、様々なことが報告されました。以下、ある病院に勤務した理学療法士の報告です。

(帰国隊員)

- 北澤良子 日本語教師 青海省西寧市 青海民族大学
- 一ノ関薫 日本語教師 安徽省合肥市 安徽大学
- 福田彩子 作業療法士 河北省石家荘市 河北医科大学第三病院
- 岡本和恵 理学療法士 江蘇省無錫市 錫山区障害者リハビリテーションセンター
- 竹中杏奈 理学療法士 広西壮族自治区 柳州市工人病院

(所員 鈴木大介)

「ずっと寝たきりで起きることができない患者さんがいました。彼女はとても起きたがっていましたが、絶対に無理ということで、誰も起してあげることは考えませんでした。」「でも、私は思いました。この患者さんをベッドから起してあげたい、希望を持たせてあげたいと…」「毎日その患者さんに付き添いリハビリを重ねました。結果、ついに体を起し、ベッドに座ることができるようになりました。その時の患者さんの笑顔が今でも忘れられません。」「患者さんの視点での理学療法、そのことが少しでも病院に伝えることができたのであればとても嬉しいです」

この他にもみなさんからたくさんのエピソードを聞くことができました。中国での2年間を大切に、帰国後も日中の架け橋となることはもちろん、それぞれの仕事や生活の中において中国で得たものを今度は日本で返していただけたらと思います。中国での活動、本当にお疲れ様でした。

中国酷！

China Cool!

タクシー支払も IC カード ～上海交通事情～

日本では鉄道をはじめ非接触の IC カード・電子マネーが普及していますが、中国でも色々なところで使われています。特に万博開催中の上海では、総延長世界一の地下鉄、バスに加えて、タクシーでも同じカードが使えます。支払は簡単、メーターの機械の上にかざすだけ。中国のタクシーは日本に比べて料金も安く、市民や観光客の足として日常的に使われていますので、カードで払えば小銭や紙幣を出す手間がなくとても便利です。

ちなみに北京にも同じようなカードがあり、タクシーでも使えることになっていますが、上海ほどは運転手さんが受け付けてくれないようです…。(所員 坂元芳匡)



運転手さん脇の機械の上に・・・ピッとカードをかざすだけ！